

## 十和田市事務事業評価シート

### 【事務事業の概要】

整理番号	100	実施計画番号	57
事務事業名	スポーツいきいき健康づくり事業		事業開始年度 平成15年度
担当課名	スポーツ・生涯学習課		事務の種類(選択) 自治事務
根拠法令等	関連事務事業		
背景や経緯等	心身ともに健康で楽しい生涯をおくるには「適度に身体を動かすこと」が効果的であり、生活習慣の中に「運動する習慣を組み込んでいく」という動機づけの事業である。		
事務事業の目的	「市民ひとり1スポーツ」を掲げ、スポーツ振興のため市民が気軽に楽しめる軽スポーツ教室やその大会を開		
実施状況	地区体育振興会15地区に開催の呼びかけをしたが、平成24年度4地区、平成25年度1地区での開催となった。		

### 【人件費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	25	25	25
	人件費(千円)	900	900	900
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)	4	4	4
	活動日数(日)	15	15	15
	人件費(千円)	153	153	153

### 【事業費の推移】

		24年度実績	25年度実績	26年度計画
事業費合計(千円)		177	177	162
うち一般財源		177	177	162
うち国県支出金		0	0	0
うち地方債		0	0	0
うちその他		0	0	0

### 【指標】

活動指標	活動指標名①					
	計算式等		単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画
			人	13回 475人	15回 219人	15回 500人
	活動指標名②					
成果指標	計算式等		単位	24年度実績	25年度実績	26年度計画
	成果指標名①		軽スポーツ参加者数			
	計算式等		単位	24年度	25年度	26年度
			目標値	500	500	500
			実績値	475	219	
			達成度(%)	95%	44%	
	成果指標名②					
計算式等		単位	24年度	25年度	26年度	
		目標値				
		実績値				
		達成度(%)				

# 十和田市事務事業評価シート

整理No	100
計画No	57

## 【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由	
<b>妥当性</b>	① <b>市民ニーズ等から見る妥当性</b> 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	<b>存在意義の見直しの余地</b> 0 / 4 ①市民の健康増進のために、団体の協力を得ながら実施している。 ②民間との競合はない。	
	② <b>実施主体である妥当性</b> 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2			
<b>有効性</b>	③ <b>活動指標から見る有効性</b> 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	5	<b>成果向上の余地</b> 1 / 6 ③活動指標の実績は順調である。 ④目標達成のため、夜間等の時間帯に軽スポーツ教室を実施している。 ⑤成果向上のため、事業への参加者を増やすことを検討する余地がある。	
	④ <b>成果指標から見る有効性</b> 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2			
	⑤ <b>事務事業の見直しの余地</b> 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	B	1			
<b>効率性</b>	⑥ <b>事業費の削減の余地</b> 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	4	<b>コスト削減の余地</b> 2 / 6 ⑦⑧他の事業との統合や事業を民間に委託することを検討する余地がある。	
	⑦ <b>他の事務事業との統合・連携</b> 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1			
	⑧ <b>民間委託等</b> 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	B	1			
<b>公平性</b>	⑨ <b>受益の偏り</b> 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	A	2	4	<b>受益者負担適正化の余地</b> 0 / 4 ⑨⑩受益の偏りはなく、受益者負担の見直しの余地はない。	
	⑩ <b>受益者負担の見直しの余地</b> 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2			
<b>現在の適性</b>					17 / 20	<b>改善の余地</b>	3 / 20

## 【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **17** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **3** 点です。

## 【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ⇒ **有効性を改善して継続**

<b>方向性の理由</b> 心身ともに健康で楽しい生涯をおくるには「適度に身体を動かすこと」が効果的であり、生活習慣の中に「運動する習慣を組み込んでいく」という動機づけのためにも、軽スポーツ教室の開催は重要な事業である。
<b>今後の具体的な取組方策と狙う効果</b> 軽スポーツ教室の種目によっては参加者数に開きがあることから種目の検証を行っていくほか、広報誌、新聞、及びホームページなどによる周知のほか、地区体育振興会15地区に配置している「生涯スポーツ推進員」の協力を仰ぎながら、広く参加を呼びかけ軽スポーツの普及拡大に努める。